出席者

斉藤雅子さん（農協職員）
農協に勤めて満五年。二歳の子供の母。嫁ぎ先も実家も農家で、農業については大いに関心があります。

小泉槙子さん（写真館）
家業の写真館は日本でも五指に入る古い写真館。その四代目を継ぎ、もっか仕事一筋。毎日が充実しています。

五十嵐優子さん（自転車店）
自転車店に嫁いで十年。二児の母として育児、家事にそして商売にと頑張っています。

岸千鶴子さん（桂高校講師）
比内町出身。大館を外から見ていろいろ感じてきました。いまは英語の講師をしている花の独身です。

市長　畠山健治郎
司会　総務課秘書広報係　斎藤まき子

新春座談会は今回で三回目、「働く若い女性たち、市長を囲んで」と題して、日ごろ仕事や職場を通じて感じていること、考えていることなどを率直に話し合っていただきました。女性から見たきめ細かな意見や考え方に市長が賛同する場面も多く、実りある座談会でした。

司会　あけましておめでとうございます。さて今日は新春座談会「働く若い女性たち、市長を囲んで」と題しましてご出席の皆さんに日ごろお仕事を通じて、女性の立場からいろいろ感じていること、お考えになっていることをお話し願いたいと思います。

自分の住んでいる所でもっと何かやれるのでは…

司会　では初めに皆さんが大館に仕事を求めたきっかけをお聞かせください。

斎藤・実家が農家で、この影響で中学生のころから農業関係の仕事を希望していました。生活指導員か農業普及員になりたかったのですが、今は農協で働いています。今の仕事は慌しく時間が過ぎていくので、家庭の仕事を十二分にやっているかと聞かれると、恥しくて答えられません(笑)今の仕事、事務ですけど、このまま続けて行くのかどうかちょっと迷っています。住んでいる雪沢で、もっと何かやれるんじゃないかな、とも思ったりしています。

岸・私は親にうまく育てられたらしく、こちらに戻って来るものだとばかり思っていました(笑)で、桂高校から講師の話しがあった時は、これで帰らなくちゃいけないと。高三の頃ですけど、みんなが懸命に勉強しているんですね。でも自分はちっとも身にならない。勉強が嫌いというわけじゃないけど、何か血の通っていないものに向っていくというのができない。結局、仕事するにしても人間を相手にした職業がいい。で今は教師をずっとやっていきたいと思っているんです。

五十嵐・私は、たまたま結婚した相手の家の仕事だったもんですから、流れのままにという感じです。仕事にタッチしてからはまだ五年ですけど、最初は何もわからずお客さんの言う通りに値段をまけてしまって、仕入れより安く売ってしまったこともあります。(笑)根がのん気なものですから、一生懸命という言葉が苦手で、家も店も子供のこともみんな頑張ろうと思ったこともあるんですけど、自分でできる範囲内のことだけ、大事な所だけに力を注いでいこうと思い、家の人にやってもらえるところはやってもらっています。かろうじて及第点をもらえるんじゃないかと、気負わないでやっています。

五十嵐　優子さん

市長・女性は職を持たなくても家という一定の所で働いているのですから、実際には男性以上に仕事をしているとも言えますね。気も遣うし頭も使う。体も使うから健康ということにも結びつく。ただ、職を持った場合でもそれを永久的なものと考えず、より良いものがあるなら自由に変えた方がいい。そう思います。

司会・それでは、皆さんのご家庭で、男性の協力ということについてどうでしょう。

小泉・私の家では役割分担がきっちりできていて、むかし気質の父も、自分の布団のあげさばや部屋の掃除は自分でやっています。近所に老夫婦だけで住んでいる人がいて、これは核家族化や地元に職が少ないことの影響なんでしょうが、たとえば奥さんが病気になる、すると何もできない旦那さんとある程度できる旦那さんとでは大きな差があるんですね。ちゃんとした料理を作れるまではいかなくても、ご飯を炊ける、ミソ汁を作れるぐらいできると、なんとか三度の食事は取れますから。そういう点で男性も厨房に立つということが少しは必要だと思うんです。

司会・市長はご家庭で何かおやりですか。

市長・いやァ、まったくだめですね、申し訳ありません(笑)でも二年半ほど秋田市で独身生活をしてまして、この間は炊事洗濯みんなやりました。

五十嵐・祖父は八十四歳ですが自分でできることは何でも自分でやるんです。主人もそれを見習っていろいろ手伝ってくれます。

司会・何もしてくれないと思いきや、皆さんのご家庭では男性の方々がひじょうに協力的なんですね。新聞を広げて寝転んでいる男性像を期待していましたのに(笑)。

男性にも育児休暇があればいいですね

市長・今の子供たちは人工環境の中で生きているんですね。私たちの世代は自然に対し挑戦しなければいけなかった。どういうことかというと、今は寒ければストーブをつける。暑ければクーラーを、空腹ならコイン一枚で食べ物が出てくる。友だちがいなくてもテレビがある。じゃ、ガスが電気がなくなったらどうする。自然を克服できないんじゃないでしょうか。私たちは最低、そういう原理、原則を教えなきゃいけない。家の仕事も教えなきゃいけないね。

司会・仕事をしていて女性であるためのメリット、デメリットはありますか。

小泉・女だからという言い方は女性から聞かれるんですよ。がんばりなさいという励ましはむしろ男性からですね。

斎藤　雅子さん

斎藤・仕事場ではとくにないと思います。ただ残業で、夏場は特に遅くなり朝は子供がバイバイしてくれますが夜は寝てしまってるということも多くて。

岸・函館で勤めていたころは回りがほとんど女性で、逆にかえって足を引っぱられることもあって、随分鍛えられました。今は自分の仕事の枠が決っていて、その範囲内を守っていれば大丈夫です。

市長・男女の特性はきちんと分担があり、男のやることを女性にやってくれと言ってもできないし、その逆もそうですね。ところでスポーツや社会面での女性の進出には目を見張るものがありますが、母性保護を唱っている労基法はかなり前のものでして、女性に夜間勤務させちゃいけないとか、法律で男女差が区分けされている。職場における地位もそれに右ならいせざるを得ない。ただ女性保護として子供を生み育てるという男性にはマネのできない部分については当然保障しなければならないし、それ以外の仕事面についてもポストを含めて労働条件の均等を保障してもらえば、そのような差別はなくなると思います。

小泉・キャリアガールとか自立する女という言葉自体が差別用語だと思うんです。男、女の決めつけでなく一人の人間としての能力を評価すべきだと思います。

新年、市民の皆さんとともにがんばります

〈市議会〉

議長	菅原一雄
副議長	伊藤武吉
議員	松崎重蔵
	畠山勝蔵
	虻川景一
	工藤良一
	湯瀬勝衛
	鳥潟哲治
	佐々木正治
	大坂谷征志
	畠沢一郎
	西村久平
	黒田常人
	安達友一
	芳賀忠行
	貝森哲男
	柳館邦男
	若松清一
	成田耕三
	佐々木丈雄
	畠山広清
	遠藤徳一
	上村清
	奈良駒吉
	菅原勇治
	成田松太郎
	石垣輝光
	日景章二郎
	斎藤芳二
	桜庭亥之助
	菅原昇
	田中国司
	佐藤芳雄
	石田寛
	佐藤一男
	奈良友二

〈市役所〉

市長	畠山健治郎
助役	丸屋悧
収入役	佐々木弘尚
企画室長	渡辺喜一郎
総務課長	石戸谷斌郎
職員課長	伊多波浩政
財政課長	萩野三宏
税務課長	山内義則
管財課長	佐藤六蔵
市民課長	鎌田勝郎
保険年金課長	渡辺二郎
保健センター所長	佐藤賢次
清掃課長	畠山広治
商工観光課長	田畑準吉
青少年ホーム館長	小林正雄
農林課長	浜松和平
土木課長	菅純一郎
都市開発課長	栗盛悦美
収納課長	高橋光男
環境保護課長	山本礼治
市民相談室長	三浦正孝
花矢支所長	山田勲
公設卸売市場長	虻川公昭
福祉事務所長	芳賀敏夫
老人ホーム所長	成田伝蔵
出納室長	柳原正雄
水道課長	岩沢吉蔵